



## 令和元年度(平成31年度)学力調査等の結果について

学力調査担当 吉田 健二

令和元年度(平成31年度)の学力調査等の結果をお知らせいたします。杉並区の「特定の課題に対する調査」は3～6年生が対象で3年生は国語・算数の2教科、4年生から6年生は国語・算数・理科の3教科で実施、都の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」は5年生が対象で国語・社会・算数・理科の4教科で実施、国の「全国学力・学習状況調査」は6年生が対象で国語・算数の2教科で実施されました。また、それぞれの調査において、「学習・生活についてのアンケート」も実施されました。

### 1 「学力・学習状況等の調査」正答率

#### (1) 杉並区「特定の課題に対する調査」結果

杉並区の「特定の課題に対する調査」は、杉並の子どもの学力の実態をもとに、区全体で定着が不十分な傾向がある領域に重点を置いて行った学習状況調査です。そのため、国・都の調査と比較して難易度が高く、正答率が低くなっています。

	国語		算数		理科	
	本校	杉並区	本校	杉並区	本校	杉並区
3年	77.2	69.1	67.2	64.4		
4年	68.1	64.4	70.1	68.1		
5年	71.3	64.7	70.3	66.4	69.7	65.7
6年	68.9	66.6	68.3	65.1	69.2	68.2

#### (2) 東京都「児童の学力向上を図るための調査」結果(正答率)

	国語		社会		算数		理科	
	本校	東京都	本校	東京都	本校	東京都	本校	東京都
5年	75.2	67.6	71.7	66.7	70.0	60.1	65.1	56.8

#### (3) 国「全国学力・学習状況調査」結果(正答率)

	国語			算数		
	本校	東京都	全国	本校	東京都	全国
6年	74.0	65.0	63.8	79.0	70.0	66.6

国や都・区の調査結果を見ると、本校の全ての学年・教科で、国や都、区の平均正答率を上回っています。本校の児童の学力は中間的な位置より若干上位にあるのではないかと推測されます。

## 2 区の調査における学習状況の評定の分布

杉並区特定課題調査では、学習の定着状況を、区の基準により5段階で評定しています。

「R1」…学び残しが多い段階

「R2」…特定の課題でつまずきがある段階

「R3」…おおむね定着がみられる段階

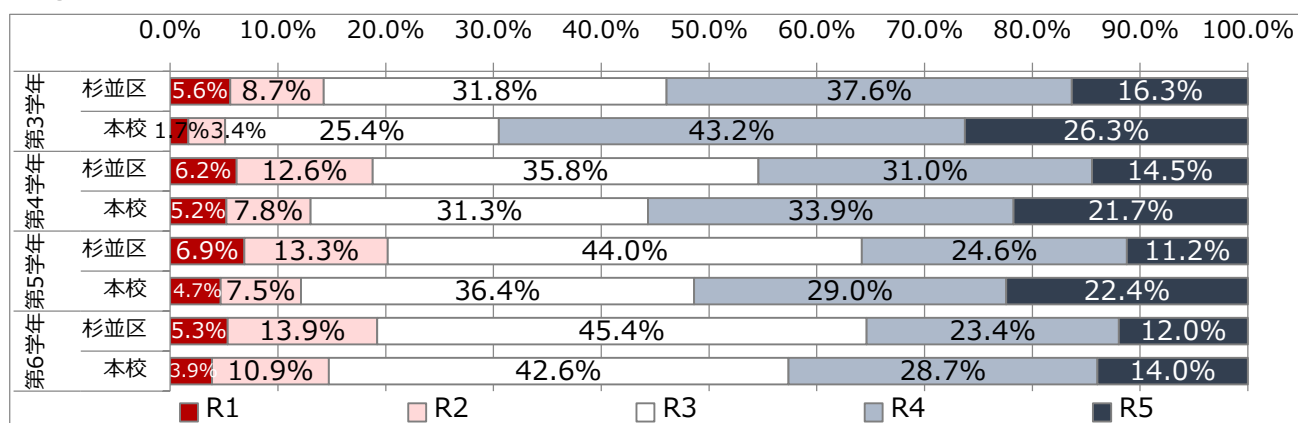
「R4」…十分定着がみられる段階

「R5」…発展的な力が身に付いている段階

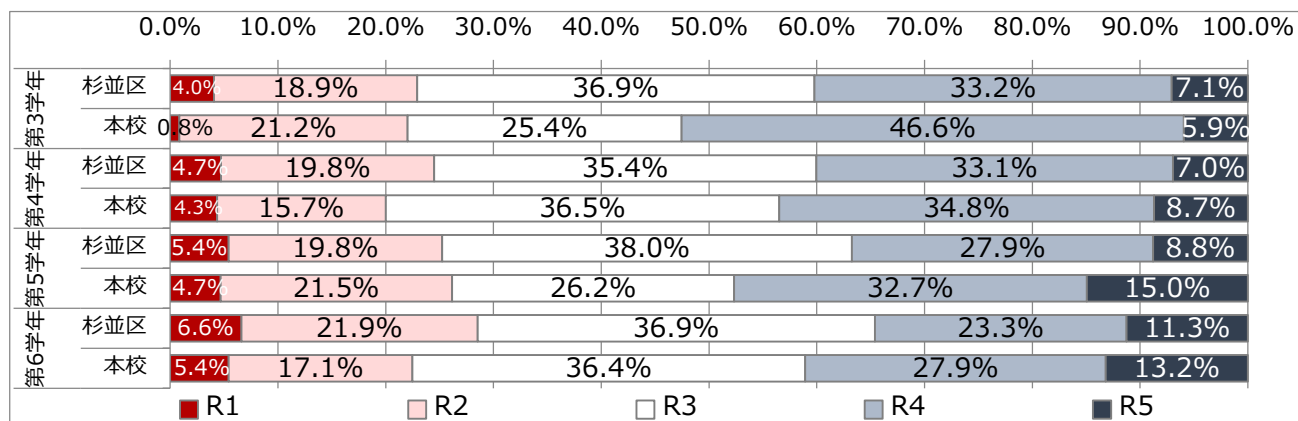
今年度の結果について、表にまとめましたのでご覧ください。

### (1) 杉並区と本校の比較

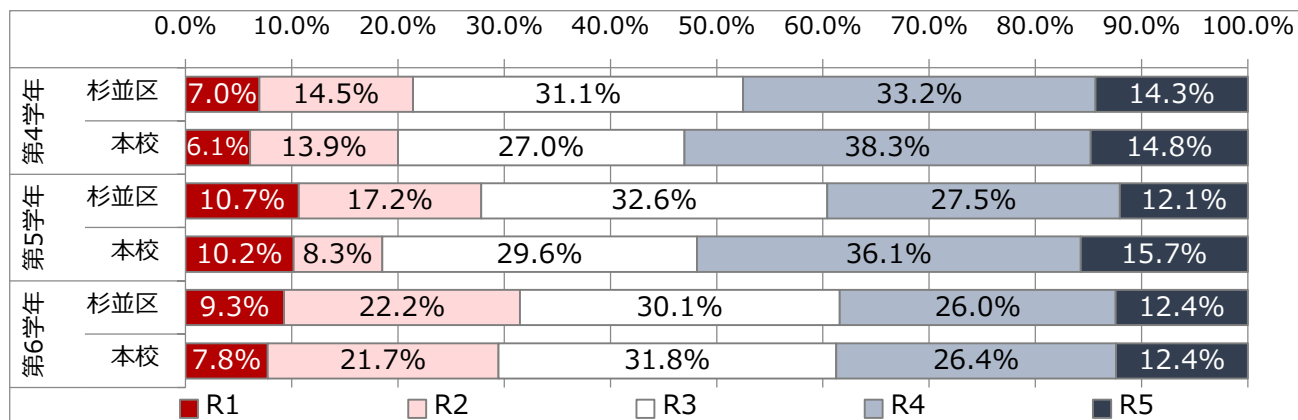
#### ① 国語



#### ② 算数

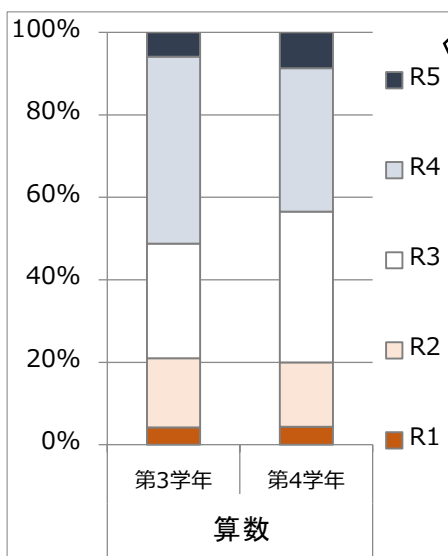
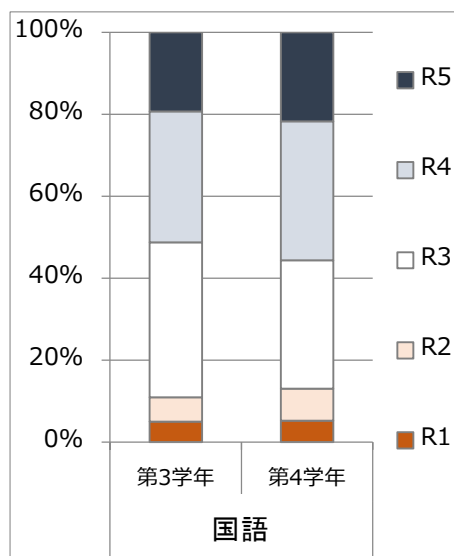


#### ③ 理科



## (2) 評定の分布状況の経年変化

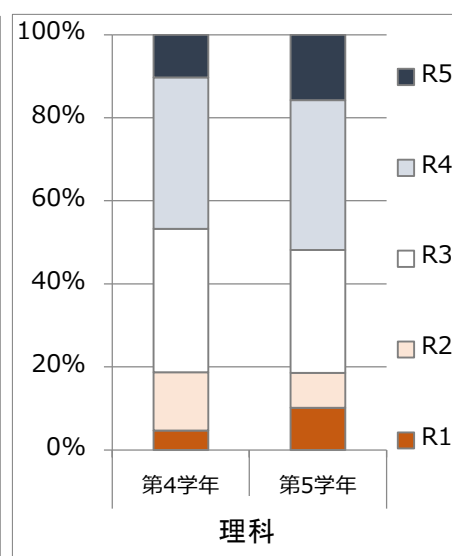
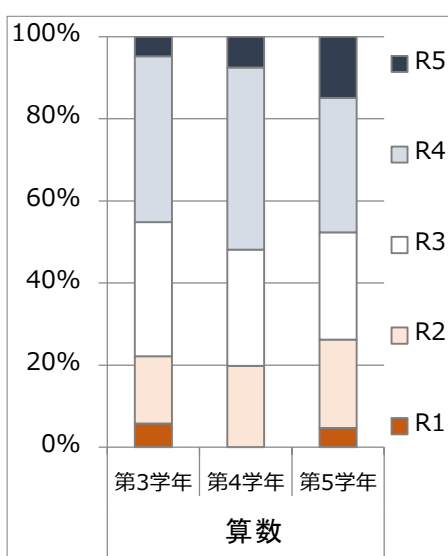
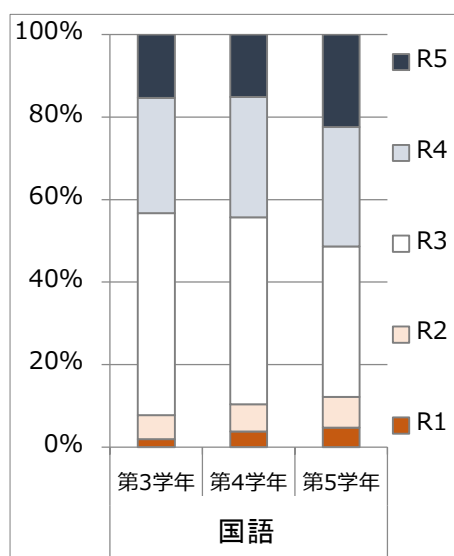
### ① 4年生



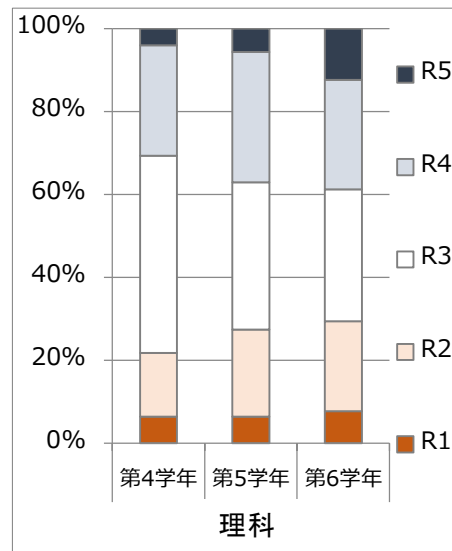
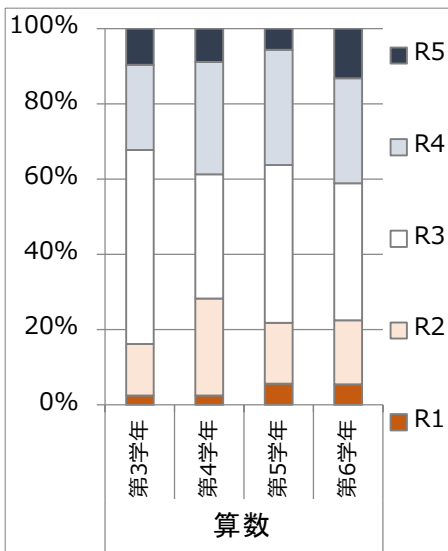
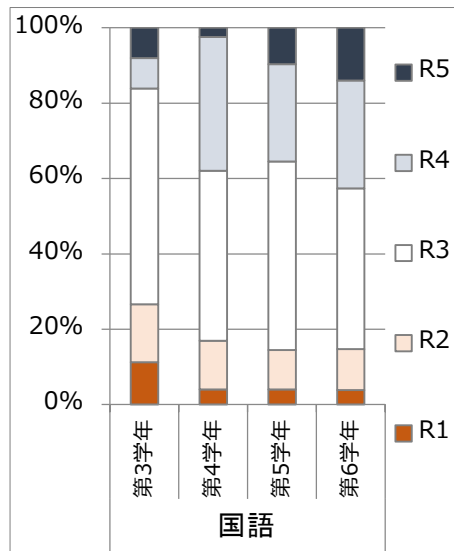
○R1～R5の分布状況を、同一学年の学年進行に沿って比較したもの。

○本調査は第3学年から実施しているため、経年変化の表示は第4学年～第6学年となる。(理科は第4学年からの実施となるため、経年変化は第5学年、第6学年で表示する)。

### ② 5年生



### ③ 6年生



## 5 区の調査における教科別の概況

### (1)国語

3年生から6年生までの全学年で基礎問題・活用問題共に区の平均を上回りました。しかし、領域別では、「話す・聞く」領域を苦手としている児童が多いことがわかりました。話し手の伝えたいことを中心をとらえて聞く問題や、聞き取った内容に応じて適切な質問をする問題につまづきが見られます。

授業では、一対一の受けて返す対話を重視すると共に、スピーチや話し合い活動などの学習場面で、話の要点を聞き取り適切にメモをとることや、分からない点やもっと知りたいと思う点を質問すること、目的や意図に応じて適切な言葉遣いで話すことの指導にこれまで以上に取り組んでいきます。

### (2)算数

全ての学年で、基礎問題・活用問題共に区の平均を上回りました。しかし、領域別には3年生の「数と計算」(減法、九九、式の場面の読み取り)の問題、4年生の「数量関係」(条件に合う小数の減法)の問題、5年生の「量と測定」(面積の単位)の問題、6年生の「図形」(立方体と円柱、立体の展開図)の問題に、それぞれ若干の課題があることがわかりました。

授業では、基礎的な知識や計算技能について分からない箇所に戻って反復指導をすること(中学年)や、日常の事象から見いだした問題を解決したり、学んだことを日常生活へ活用したりするような数学的な活動を重視した指導(高学年)を行っていきます。また、全学年を通して、既習事項を基にして新たに学習する内容を考えることができるような系統性を意識した指導や、考えたことを図や言葉や式で表現し、学習集団の中で交流させることで、思考力を高める指導に取り組んでいきます。

### (3)理科

4年生と5年生は基礎問題・活用問題共に区の平均を上回りました。しかし6年生では、基礎問題は区の平均を上回りましたが、活用問題は0.1ポイント区の平均を下回る結果となりました。観点別には「観察・実験の技能・表現」(流水実験の条件設定、実験器具の使い方等)の問題に課題があることがわかりました。理科の学習は、学年によって扱う事物・事象が変わるので、子どもにとっては新しい知識を次々と覚えていく形となり、理解が浅く不十分になっている面もあるのではないかと考えられます。

授業では、単に教科書で知識を覚え込ませたり、問題を解いたりすることばかりではなく、観察・実験などを通した探求的な学習を丁寧に行っていくことで、自然の事物・現象について実感のある理解につなげる指導の充実を図っていきます。

## 6 学年ごとの課題と授業改善策

### (1)国語

	課 題	改 善 策
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が伝えたいことや自分の考えをまとめて伝えることに課題がある。文章の間違いや、表現が不十分なところに気付き、正しく書くことが苦手である。</li> <li>・文章を表現したり理解したりするために必要な語彙が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的に文章を書く機会をもつ。その際、相手意識を明確にもって書かせるようにする。書いた後は自分で読む、友達に読んでもらう活動を取り入れ、自分の意図や伝えたいことが正しく伝わっているか振り返る時間を設ける。</li> <li>・辞書の活用や読書の時間を確保することで、語彙力の向上と言葉の正しい使い方についての理解を深める。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・叙述に根拠を見つけて登場人物の心情を読み取ることに課題がある。</li> <li>・話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えて話を聞くことや、そこから自分の考えをもったり、広げたりすることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語文を読む際に、会話文や行動など登場人物の心情が表れている部分にサイドラインを引かせるなどして、根拠をもって心情を読み取れるように指導していく。</li> <li>・「話す・聞く」の单元だけでなく、年間を通してミニ单元を行ったり、どの教科でも対話の時間を設けてよい聞き方や話し方を確認したりする。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話合う力に課題があり、特に相手に質問したり感想を述べたりすることが苦手である。</li> <li>・自分の考えを書いて表現することに課題があり、児童によって個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話合うことに重点をおいた指導をしていく。国語の時間を中心に、他教科でも児童同士が話合う場面を設けていく。また、話合いによって考えを深めたり、高めたりする良さを実感できるようにする。</li> <li>・自分の考えを書く時間を設け、短い文章でも考えを表現させ、書くことに慣れさせる。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や話し合い活動の際、発言をする児童に偏りがあり、一人一人の意見を大切に作る雰囲気作りに課題がある。</li> <li>・自分の考えを文章で表現することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し方、聞き方の基本的な型を再度確認させるとともに、自分の考えを発表する機会を意図的に設けることで言語活動を豊かにし、安心して自分の意見を言ったり、友達の意見を聞いたりできる学級づくりを行う。</li> <li>・授業の中で、自分の考えを書く機会を十分に設ける。また、書いた文章を読み合ったり、交流したりして、多様な表現に触れる経験を積ませるとともに、よいところを真似るよう指導する。</li> </ul>

### (2)算数

	課 題	改 善 策
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3位数－2位数の計算、九九を使った計算の理解が不十分である。</li> <li>・図形領域の理解が不十分である。</li> <li>・自分の考えを言葉で表したり、説明したりすることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的に計算問題に取り組ませ、前学年の復習と計算技能の習熟を図る。</li> <li>・作図の時間を十分にとり、用具の使い方に慣れさせることで、図形学習への意欲を高めさせる。</li> <li>・ペア、グループ等、学習形態を工夫することで、自分の考えを説明する機会をもち、思考力や表現力を高めさせる。</li> </ul>

4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3位数×2位数の計算、減法の計算のきまりを使った問題の正答率が低く、桁数が多くなるにつれて、計算ミスが多くなっている。基本的な計算技能の習熟に課題がある。</li> <li>・正三角形や二等辺三角形など図形の基本的な性質の理解が不十分である。</li> <li>・一つの問題に対して多様な解き方を考え、言葉や式や図に表したり、友達に伝えたりすることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の前後や高二タイムで復習プリントを行い計算の習熟を図る。</li> <li>・正三角形や二等辺三角形など前学年までに学習したものも含めて、図形の性質をもう一度押さえる。また、作図をさせることで、実感的な理解を深める。</li> <li>・テープ図や数直線、線分図など、図を使って考えるよさについて指導し、式の意味や考えをわかりやすく説明する力を高める。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟の遅いコースの児童は、学習全体への自信のなさが見られる。既習事項の定着が不十分で、抽象的・発展的な内容の理解に課題がある。</li> <li>・習熟が中位のコースの児童は、活用問題を苦手としている。基礎的な知識・技能の理解が活用問題において生かせていない。</li> <li>・習熟が早いコースの児童は、答えを出すことはできるが、自分の考えをこれまで身に付けてきた数学的な見方や考え方をを用いて説明することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の導入で関連する既習事項を想起する活動を設定して、安心して取り組むことができるようにする。また、一人で考えることよりも友達と意見を言い合いながら学習する方が、意欲的に活動できることから、内容に合わせてグループ活動を取り入れる。</li> <li>・何を考えればよいのかの学習課題をはっきりさせた授業を展開する。その際、何をもとに考えればよいのか基礎的な知識・技能との関連付けを意識させるように指導する。</li> <li>・一斉授業だけではなく、小グループで話し合いながら、課題を解決する学習場面を多く取り入れる。自分の考えを友達に説明する際には、算数の用語を正しく使えるように繰り返し指導し、言語活動を充実させ、思考力や表現力を育成する。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟の遅いコースの児童は、単位換算が苦手な児童が多く、「量と測定」の学習に課題がある。</li> <li>・習熟が中位のコースの児童には、立体や図形などの理解不足が見られる。対象をよく観察した上で、その性質や意味を読み取り、実感的に理解を深めていくことに課題がある。</li> <li>・習熟が早いコースの児童は、身に付けた知識・技能を用いて、数学的な見方や考え方を発展的に深めていくことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な大きさをイメージできるよう実物を用いたり、必要に応じてICTを活用したりして、まずは量感をもてるようにする。新しい単元に入る前には、既習事項がどこまで定着しているかの確認をする。</li> <li>・立体、図形の学習では、形式的な知識・理解にとどまることなく、基礎的な知識の背景にある概念や性質が理解できるように、既習事項と新しい知識の関連づけを意識して、丁寧に指導していく。前学年までの学習内容を振り返る機会を必ず設ける。</li> <li>・授業の最後に「次は何をしたいか」を問い、児童に課題を設定させながら単元の学習を進めていく。また、学習したことを活用して問題作りをし、児童同士で出題し合うことで自分の考え方を広げていく。問題を作ることで、基礎的な知識・技能を活用するための数学的な考え方を育てていく。</li> </ul>

## 7 学習・生活についてのアンケートより

学習・生活についてのアンケート調査は、自己意識や生活実態、学習状況の諸側面を児童が自己評価できるように設計されています。

**認知能力と非認知能力** ※本欄は(『学力の経済学』中村牧子著)を参考に作成しました。

学力調査で計測される能力を一般に「認知能力」と呼びます。一方で、「忍耐力がある」とか「社会性がある」とか、「意欲的である」といった、人間の気質や性格的な特徴のようなものは「非認知能力」と呼ばれています。非認知能力は、将来の成功に大きく影響するとともに、認知能力の形成にも一役買っていることが注目されています。非認知能力といっても、いろいろなものがありますが、「自制心」や「やり抜く力」を早期に獲得することが特に重要とされています。



平均を大きく(5ポイント以上)上回ったもの。

区平均を下回ったもの。

「自己肯定感・自己効力感」に関連する質問項目(肯定的な回答をした児童の割合)

		今の自分に満足している。 (1-9)			今の自分を「好き」と言える。 (1-12)		
		本校	杉並区	差	本校	杉並区	差
	3年	80.7	65.2	15.5	76.5	62.3	14.2
	4年	68.7	64.3	4.4	76.5	62.2	14.3
	5年	59.3	57.5	1.8	71.3	61.6	9.7
	6年	56.6	52.9	3.7	72.9	57.3	15.6
	全校	66.2	60.0	6.2	74.3	60.9	13.4

「自制心・意思力」に関連する質問項目(肯定的な回答をした児童の割合)

		難しいことに挑戦することは、楽しいこと だと思う。(2-10)			自分は努力すれば、たいていのことがで きるようになると思う。(2-24)		
		本校	杉並区	差	本校	杉並区	差
	3年	76.5	76.2	0.3	82.4	79.2	3.2
	4年	80.9	78.1	2.8	85.2	81.6	3.6
	5年	80.6	75.2	5.4	81.5	78.5	3.0
	6年	77.5	76.6	0.9	80.6	78.8	1.8
	全校	78.8	76.5	2.3	82.4	79.5	2.9

○ 平均を大きく(5ポイント以上)上回ったもの。

△ 区平均を下回ったもの。

「やり抜く力」に関連する質問項目(肯定的な回答をした児童の割合)

		ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。(2-6)			自分は、最後までやりぬくなど根気強いほうだと思う。(2-13)		
		本校	杉並区	差	本校	杉並区	差
	3年	85.7	86.2	▲0.5	75.6	69.6	6.0
	4年	92.2	90.7	1.5	73.0	67.1	5.9
	5年	93.5	91.9	1.6	60.2	63.3	▲3.1
	6年	93.0	91.4	1.6	62.0	63.7	▲1.7
	全校	91.1	90.0	1.1	67.7	66.0	1.7

「意欲・目標への情熱」に関連する質問項目(肯定的な回答をした児童の割合)

		難しいことに挑戦することは、楽しいことだと思う。(2-10)			興味をもったことは、自分から進んで学んでいる。(3-7)		
		本校	杉並区	差	本校	杉並区	差
	3年	76.5	76.2	0.3	83.2	77.4	5.8
	4年	80.9	78.1	2.8	87.8	81.3	6.5
	5年	80.6	75.2	5.4	81.5	79.8	1.7
	6年	77.5	76.6	0.9	83.7	82.5	1.2
	全校	78.8	76.5	2.3	84.1	80.2	3.9

「他者への受容」に関連する質問項目(肯定的な回答をした児童の割合)

		自分とちがう意見や考え、気持ちも大切にできている。(1-5)			人の気持ちを分かろうとしている。(1-22)		
		本校	杉並区	差	本校	杉並区	差
	3年	86.6	78.0	8.6	84.9	83.8	1.1
	4年	85.2	78.5	6.7	85.2	87.0	▲1.8
	5年	87.0	81.3	5.7	87.0	88.7	▲1.7
	6年	87.6	84.9	2.7	94.6	91.3	3.3
	全校	86.6	80.6	6.0	88.1	87.7	0.4

非認知能力は学力だけに結び付くわけではありません。生涯にわたって自分を成長させたり、豊かな人間関係を構築したり、人生のあらゆる営みの支えとなります。そして、誠実さ、忍耐強さ、社交性、好奇心の強さなどの非認知能力は人から学び獲得するものであると言われています。

学校とは、ただ単に勉強をする場ではなく、先生や友達から多くのことを学び、「非認知能力」についても培う場所でもあるという認識のもと、全ての教育活動を通してこれらの力を高められるように取組を行っています。



～10月の行事予定～

日	曜	行事等	授業時数						校庭 開放
			①	②	③	④	⑤	⑥	
1	火	都民の日（学校休業日）							C
2	水		4	4	4	4	4	4	A
3	木	避難訓練	5	6	6	6	6	6	
4	金	理科出前授業（プラネタリウム）⑥	5	5	5	6	6	6	
5	土	久我山幼稚園運動会							
6	日	（久我山幼稚園運動会予備日）							C
7	月	委員会（10月）	5	5	5	5	6	6	
8	火	自転車安全教室③ 生活科見学①	SC	5	5	6	6	6	
9	水	福祉体験授業④	5	5	6	6	6	6	B
10	木	特支連合運動会 明かりの工コ教室④	5	6	6	6	6	6	
11	金	特支連合運動会予備 認知症サポーター養成講座④	5	5	5	6	6	6	
12	土	長縄グランプリin高二 学校運営協議会	3	3	3	3	3	3	
13	日								C
14	月	体育の日							C
15	火	安全指導 移動教室事前健診⑥	5	5	6	6	6	6	
16	水	弓ヶ浜移動教室始⑥	5	5	6	6	6	6	B
17	木	弓ヶ浜移動教室⑥	5	6	6	6	6	6	
18	金	弓ヶ浜移動教室⑥終 理科出前授業⑤	5	5	5	6	6	6	
19	土								
20	日	みやまえあきまつり							C
21	月	クラブ活動 日フィル出張音楽教室④	SC	5	5	5	6	6	
22	火	（即位礼正殿の儀）祝日							C
23	水		4	4	4	4	4	4	A
24	木	生活習慣病予防検診④⑤⑥希望者 久我山学級4時間授業日	5	6	6	6	6	6	
25	金	生活科見学②	5	5	5	6	6	6	
26	土	すぎなみウェルネスDAY・長縄グラ ンプリ 久我山保育園運動会							
27	日								C
28	月		5	5	5	5	6	6	
29	火	5分区連合運動会⑥ 特別時程	SC	3	3	3	3	3	6
30	水	5分区連合運動会予備	5	5	6	6	6	6	B
31	木	中学校授業体験⑥ 読書旬間始	5	6	6	6	6	6	

○の数字は学年、(久)は久我山学級を表します。  
SC…スクールカウンセラー来校日です。  
水曜日は原則、毎週特別時程です。  
PTA・地域行事等は斜体で表します。

～11月の行事予定～

日	曜	行事等	授業時数						校庭 開放
			①	②	③	④	⑤	⑥	
1	金	個人面談(久) 美術鑑賞教室④	5	5	5	6	6	6	
2	土								
3	日	文化の日							
4	月	振替休日							C
5	火	安全指導 避難訓練	SC	5	5	6	6	6	
6	水		4	4	4	4	4	4	A
7	木	展覧会準備⑥	5	5	5	5	5	6	
8	金		5	5	5	6	6	6	
9	土								
10	日								C
11	月	委員会（11月）	5	5	5	5	6	6	
12	火		SC	5	5	6	6	6	
13	水	読書旬間終	5	5	6	6	6	6	
14	木	展覧会（児童鑑賞日①③⑤）	5	6	6	6	6	6	
15	金	展覧会（児童鑑賞日②④⑥） 幼保小交流(2)	5	5	5	6	6	6	
16	土	展覧会（保護者鑑賞日） 学校運営協議会	5	5	5	5	5	5	

第5分区連合運動会に伴う時程変更について

本校校庭で行われます第5分区連合運動会（6年）に伴い、29日（火）は、1～5年生は、特別時程・給食ありの3時間授業で、12時15分下校となります。但し、当日雨天の場合は、特別時程・給食ありで1・2年生は5時間授業、3～6年生は6時間授業となります。連合運動会が予備日の30日（水）の実施になった場合は、30日（水）が特別時程・給食ありの3時間授業となります。詳しくは、別途配布される「第5分区連合運動会に伴う時程変更について」のお便りでご確認ください。また、久我山学級につきましては、久我山学級の学級だより「すくすく」をご覧ください。

※第5分区連合運動会には6年生のみ参加します。

校庭開放について

水曜特別時程4時間・・・13:30～17:00（A）  
水曜特別時程6時間・・・14:40～17:00（B）  
日曜日・祝日・・・・・・13:00～17:00（C）  
☆9月から、校庭開放の出入り口は、青門のみとなっています。  
青門から直接校庭に入ってください。

☆日曜日・祝日の13:00～17:00の校庭開放について  
月に数回、日曜日・祝日の校庭開放の時間にサッカー等の練習や試合を行っている日があります。そういう日は校庭全面を使つての開放ではありませんが、校庭開放として、鉄棒をはじめ、校庭周辺の遊具や校庭の端の方で遊ぶことができます。